

平成28年度 リハビリテーション大学 出前講義一覧

平成28年4月28日現在

講師氏名	分野、講義名	講義概要	備考	対象			
				小	中	高	一
山村 千絵	「摂食嚥下(食べる・飲み込む)のしくみをはじめとする「摂食嚥下機能(およびその障害)」に関する基礎的講義	摂食嚥下(食べる・飲み込む)機能の生理学的なメカニズムについて、食事をおいしく味わうことの重要性をふまえて、わかりやすく実例を示しながら講義します。また、必要に応じ、摂食嚥下障害の簡単な検査法や機能向上のための訓練法(口腔ケア含む)などについても触れます。	1回60分程度(時間や講義の難易度等は相談に応じます。)	○	○	○	○
的場 巳知子	臨床精神医学・心理学・芸術療法	海外での心理・芸術療法の経験を生かした授業を行います。特に英国のRADAやローハンプトン大学で行っている、非言語的コミュニケーション技法は年齢・性別等を考慮したさまざまなアプローチに対応できます。		○	○	○	○
押木 利英子	子どものリハビリテーション	障害を持って生まれてくる子どもや事故や病気で障害を持つ子どもたちの成長とリハビリテーションの様子を説明します。様々な障害の解説とともに、子どもたちのQOL向上のための理学療法を中心とした医療の重要性について説明します。				○	○
浅海 岩生	筋力増強の方法	筋力増強の基礎理論を分かりやすく説明します。また実施方法や注意点などを実技を交えて解説します。				○	○
高橋 明美	中枢神経疾患に対する理学療法	脳の不思議について分かり易く説明します。具体的には、脳の構造から機能、脳が損傷を受けたときの障害、回復過程、理学療法について説明します。				○	○
高橋 洋	腰痛や肩の痛みに対する理学療法	腰痛や肩の痛みに関して必要な解剖的知識を説明する。またそれぞれの痛みに関する代表的疾患の概要及びその対処法を説明します。				○	○
栗生田 博子	①スポーツ傷害 ②インクルーシブスポーツ ③運動器疾患(変形性膝関節症)	①スポーツ傷害:成長期を中心としたスポーツ傷害に関するリハビリテーションや発症予防、トレーニングなどについて ②インクルーシブスポーツ:障がいの有無に関わらず子どもから高齢者まで誰もが楽しめる体育・スポーツに関する方法について ③運動器疾患:特に変形性膝関節症に関するリハビリテーションや発症予防、日常生活の工夫などについて	学校(学級)、クラブなどの単位でも可能	○	○	○	○
松林 義人	①介護予防(転倒・認知症予防)について ②高齢者の運動について	①健康寿命延伸に必要な介護予防について、転倒・認知症のメカニズムやさまざまな視点からの予防方法を説明します。 ②老化に伴う身体・精神的変化と、高齢者に必要な運動の方法等について説明します。	特に中高年から高齢者が対象			○	○
星野 浩通	神経の病気と症状	神経学とまわりの人にみられる障害について説明します。		○	○	○	
佐々木 理恵子	①スポーツによるケガ ②変形性膝関節症 ③高齢者の健康維持	①スポーツによるケガ:部活動やクラブ活動の参加によるケガの予防やトレーニング方法について ②変形性膝関節症:加齢により生じやすいとされる変形性膝関節症の予防やリハビリテーション、トレーニングについて ③高齢者の健康維持:ロコモティブシンドロームの予防方法や認知症予防の体操など		○	○	○	○
北村 拓也	①脊柱疾患(腰痛)に対する理学療法 ②中枢神経疾患の理学療法 ③加齢ともなう骨格筋の変化 ④動作の診かたとその対応	脊柱(せぼね)に問題が生じると、肩や膝、足首に問題が波及し、高齢者で多い肩関節周囲炎(いわゆる五十肩、四十肩)や変形性膝関節症といった病気になる可能性が高くなってしまいます。長く健康的に過ごすためにも、健全な脊柱の状態を維持しなければなりません。自分自身がどのような姿勢タイプなのかを知り、今のうちにその予防方法を知ることがとても重要なことだと思います。本講座では、加齢に伴って体がどのように変わっていくのか、最新の情報をおりませつつ、運動を通して自己管理の方法を学びます。				○	○
栗原 トヨ子	生活の中の作業療法	紀元前の時代から、心や身体の病気に対して「作業」を用いた治療法が効果を発揮していたという記録が多く残っています。また、人間は朝起きてから夜寝るまで、身の回りのことや仕事や休息のためのレジャーを楽しむというように何から何の積み重ねで生活しています。これらの種々の行為を「作業」と捉え、その人にとって大切な行為(作業)を再び行えるように手助けし、その人が望む生活を取り戻すお手伝いをする作業療法について分かりやすくお話ししたいと思います。住み慣れた地域で生活をしていくための方法を患者様と一緒に探し求めて行く作業療法という仕事は大変やりがいのある仕事といえます。				○	○
永松 一真	分野:福祉機器、福祉用具 講義名:車椅子と杖の使い方、介助方法を知る	目が見えづらくなったら眼鏡を掛けて、視力を補いますね。それと同じように、歩くことが不自由になれば、車椅子や杖などを渡って歩くことを補います。車椅子や杖を使っているお年寄りや体の不自由な人の特徴を知ることであなたにもできるサポートがあるかもしれません。お互い様の気持ちを大切に共に生きることを学んでください。		○	○		
藤本 聡	精神科病院での作業療法士の業務(治療)の内容	精神科病院で作業療法士が行っている業務(治療)の内容を理解していただく。				○	○
長谷川 裕	精神科の病院で「作業療法士」として働くということ	精神科の病院で作業療法士としてリハビリテーションに携わって来ました。その中で、人間の持つ力の素晴らしさについて、私が感じた事柄をお伝えできればと思います。				○	○
北上 守俊	障がいのある人の「働きたい」を応援する	障がいを持って働きたいと願う人は多くいます。作業療法士は、その願いを叶える役割を担っています。今後、労働人口が減少していく中で障がいがある人が1人で多く活躍できる社会づくりの支援ができればと考えています。					○
田中 善信	夢中になれる「作業(もの)」を作ろう。 ～人生を楽しむための理論～	超高齢化社会を迎え、第2の人生をよりよく生きること、健康に生きることが重要とされている。人間は自分が興味のあることや趣味に没頭すると充実感を感じ、幸せな時間を過ごすことができるとされています。作業療法士として、そのような体験を科学的に考えることができれば良いと考えています。					○
倉智 雅子	①声の不思議 ②声の衛生	①何気なく出ている人間の声について紹介します。 ②声を使う職業人を対象に、どのように声を護ったらよいか、実演も含めてお教えします。	①60分 ②90分			○	○

講師氏名	分野、講義名	講義概要	備考	対象			
				小	中	高	一
高橋 圭三	①飲み込みの基礎知識、障害とは ②聴覚の体験	①社会で問題となっている飲み込みの障害について説明し、体験を通して障害を理解します。 ②聴覚のメカニズムについて学び、大学の講義をイメージします。	①60～90分 ②30分		○	○	○
伊林 克彦	脳と神経・・・人間の生活	日常生活で運動感覚、言語などにかかわる脳と神経の話です。もし、そこに障害があった場合、生活はどうなるのかを考えます。	男性1名付添い 会場1階限定			○	○
大平 芳則	音声学 ～言語聴覚士と英語学習～	音声学は外国語の学習に役立つと同時に、言語聴覚士には必須の知識です。音声学がどのように英語学習に役立つのか、また言語聴覚士が音声学をどのように使うのか、音声学の基礎的な概念とともに紹介します。			○	○	
佐藤 厚	摂食嚥下障害 失語症と構音障害 高次脳機能障害	比較的なじみのないこれらの障害をわかりやすく説明し、言語聴覚士の仕事の大切さを伝えたいと思います。		○	○	○	○
阿志賀 大和	嚥下障害・失語症・高次脳機能障害・言語聴覚士とは	言語聴覚士の仕事内容と成人領域の障害を中心に、子どもの言語発達の概要についてお話しします。		○	○	○	○
若松 直樹	高齢者の暮らしと認知症	●高齢になると生活する上でどのような不自由や苦勞がおきてくるのか。私たちはそれにどのようなお手伝いをすればよいのか？ 考えてみましょう。 ●特に高齢になるとおきることの多い「認知症」とはどのような病気でしょうか？ 認知症を正しく理解することで、高齢者本人や高齢者を介護する家族(みなさん)が安心して生活できることを知ってください。			○	○	○
	こころの支援 -「公認心理師」という国家資格の誕生-	●心理学、カウンセラー(カウンセリング)、性格、こころの病、人間関係、こうしたことがらに興味をもっている方は多いでしょう。昨年(2015年)9月に人間のさまざまな「こころの課題」を支援する専門職として「公認心理師」という国家資格が誕生しました。 ●「公認心理師」とはどのような仕事か？ この資格を取得するにはどうしたらよいか？ こころの支援に興味のあるみなさんや、将来の職業として考えているみなさんに知っていただき、みなさんの疑問に応えます。			○	○	
宮岡 里美	①お口のリハビリテーション 「食べる・話すしくみとその障害」 「摂食嚥下障害の予防と食支援」 「認知症や精神疾患への食支援」	①摂食嚥下障害や言語障害の原因は様々で、新生児から高齢者まであらゆる年齢層にみられます。上手く食べられない、飲み込めない、生命が危険にさらされます。その食べる仕組みは話す仕組みとも深く関わっていて、両者ともに呼吸と運動しています。うまく話せない人は社会的に生きていくことが難しくなります。これら人が生きていく上欠かせない食の機能と話す機能のしくみとその支援法について、実演を交えながらわかりやすく説明していきます。			○	○	○
	②心理学 「無力感はどこから生まれてくるか？」 「何故いじめるのか？」	②動物実験等で実証されている学習心理学の理論から、やる気のなさいじめの発生についてわかりやすく説明していきます。何故いじめられている人はそこから逃げようとするのか、その不可思議な行動の一端が見えてきます。			○	○	○
大矢 薫	折れない心の作り方	●生きていると楽しいことやうれしいことだけでなく、悲しいことや辛いこともあります。そのような辛く苦しい状況から立ち直る力を「レジリエンス」と呼びます。この「レジリエンス」という力を高めることができれば折れない心が作られていくのです。「レジリエンス」とは何かを紹介します。 ●「レジリエンス」を高めるには、具体的にどういうことをしていけばよいのでしょうか？ 実践を通して、一緒に考えていきましょう。			○	○	○
長谷川 千種	①心理療法としての表現アート	①表現アートセラピーは、さまざまな芸術表現を用いる心理療法のひとつです。ワークショップ形式でご紹介します。				○	○
	②学習を促進させる表現アート	②絵画・工作・ムーブメント・ドラマなど、様々なアート表現を使った教育法であるアーツ・インテグレーションによる授業を行います。 例)「ドラマやムーブメントで月の満ち欠けを学ぼう!」「身体を使って詩を読んでみよう!」「ダンスで円について学ぼう!」			○	○	

※必要な機材、詳細はお問合せください